

【草花の部屋】

ヒナゲシ (ケシ科ケシ属 Papaver rhoeas)

和名：ヒナゲシ(雛芥子、雛罌粟) 、ポピー

別名：グビジンソウ(虞美人草)、コクリコ、シャーレポピー **英名**：Corn poppy

キンポウゲ目 一年草 **原産地**：ヨーロッパ

花言葉：恋の予感、いたわり、思いやり、陽気で優しい、他

花の色：赤、白、桃、複色



← 写真-1 ヒナゲシ

撮影日：2016年06月03日

撮影場所：モネの家

(フランス・ジヴェルニー)にて

撮影者：M さん

↓ 写真-2 ヒナゲシの葉

撮影日：2016年06月03日

撮影場所：モネの家

(フランス・ジヴェルニー)にて

撮影者：M さん





← 写真-3 ヒナゲシ(赤)
撮影日：2016年06月03日
撮影場所：モネの家
(フランス・ジヴェルニー)にて
撮影者：M さん

↓ 写真-4 ヒナゲシ(白)
撮影日：2016年06月03日
撮影場所：モネの家
(フランス・ジヴェルニー)にて
撮影者：M さん



フランスのジヴェルニーにあるモネの家を、訪れた際、その庭で見かけました。庭全体が、ほぼ碁盤の目状に区画され、花を巡りながら散策できる構成でした。散策中、赤い、可愛い花が目に入りました。遠目にも、ポピーの仲間と解りました。すぐ傍に白も・・・。

ヒナゲシは、薄い和紙で造ったような皺のある花卉が、風に揺られる姿に風情があります。毛の生えた蕾は、初

めは下を向いていますが、咲くときに上を向き、蕾の先端が2つに割れて花が咲きます。基本の花弁数は4枚ですが、八重咲きもあるそうです。移植を嫌うので、9月下旬から10月中旬頃に、花壇に直まきすると良いそうです。植えつけ後は丈夫であまり手がかからず、ヨーロッパではコムギ畑に生える雑草として扱われるほど繁殖力も旺盛で、日本でも日当たりがよく、乾燥した場所であれば、こぼれダネでもふえます。日本へは江戸時代に日本に輸入されたそうです。

虞美人草と呼ばれるのは、中国の項羽と劉邦の最後の戦いのとき、項羽の寵愛を受けた虞妃(虞美人)が自害し、その傍らからヒナゲシの花が咲いたという言い伝えに由来しているそうです。

ケシというと、果実からモルヒネの原料採れて栽培するのは違法になるのではと・・・。しかし、ヒナゲシからは採れないので栽培することができます。

< ちょっと一言 >

ポピーの英名「Papaver」は、ラテン語の「papa (粥)」が由来になっているそうで、小さい子どもを眠らせるために、食べさせるお粥に睡眠作用のあるポピーの乳汁を混ぜたことから、この名前がついたそうです。